5 英国による対中国鉄道借款問題

409 昭和9年4月4日 広田外務大臣宛 在南京須磨総領事より

設公債発行に関し在中国英国公使内話について対英義和団事変賠償金を担保とする粤漢鉄道建

機密第二三八號

(4月17日接受)

昭和九年四月四日

在南京

總領事 須磨 彌吉郎[印]

外務大臣 廣田 弘毅殿

粤漢鐵道建設公債發行等ニ關スル件

十萬磅前後ナルヘキ處右ハ粤漢鐵路完成ヲ目的トシ客年一、今囘英支團匪賠償金ヲ基金トシテ發行スル公債額ハ百五

尚粤漢鐡道建設狀況ニ付三月二十八日鐡道部次長曾仲鳴ノ大年乃至五ケ年ノ年賦ニテ英國ヨリ軌條、機關車、客車、京保管委員會ヨリノ借入金ヲ以テ一九三一年一月以降三大年乃至五ケ年ノ年賦ニテ英國ヨリ軌條、機關車、客車、
東臺等ヲ購入シ居レルカ粤漢鐡道建設材料ノ大部分モ英
東臺等ヲ購入シ居レルカ粤漢鐡道建設材料ノ大部分モ英
東京鐡道材料ニ付テハ支那側ハ豫テ各鐡路局用トシテ英支庚

一、政府ハ之カ建設ヲ急キ居ルモ工費調達ノ便宜上差當リ党民族通信記者ニ對スル談話要旨左ノ通リ

行スル豫定ナリ道部ニ於テ上海銀行團ト交渉ノ上千二百萬元ノ公債ヲ發、政府ハ之カ建設ヲ急キ居ルモ工費調達ノ便宜上差當リ鐵

一、該鐵道ノ建設工程ハ現在三段ニ分チ

ニ株州ヲ距ル八十七粁ノ雷溪ニ達スル豫定(イ)北段ハ目下涤口、昭陵間ヲ建設中ニシテニケ月以內

(ロ)南段ハ旣ニ樂昌ヨリ湖南省境白石渡ニ至ル區間ヲ完

リ湖南省内迄開通ノ見込成シ目下省境ノ墜道ヲ建設中ナルカ本年内ニハ廣東ヨ

定ナリ云々 供給及工事聯絡ヲナス外同地ヨリモ建設ニ着手スル豫(ハ)尙中段ニ付テハ衡州ニ建設事務所ヲ設置シ諸材料ノ

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先 公使 北平 上海 漢口 廣東 長沙

410

昭和9年4月11日

広田外務大臣宛(電報)在南京須磨総領事より

改善ののち剰余を関係国に債権高で比例配分すべ中国側の誠意なき対応に鑑み鉄道債権整理は経営

しとのビー

ル在中国英国商務参事官意見について

南 京 4月11日後発

本 省 4月11日後着

第三二六號

往電第三二四號ニ關シ

権整理ニ關スル本官トノ談話要領左ノ通十日「ビール」再ヒ本官ヲ來訪シタル際英國ノ鐵道關係債

一、本官ヨリ二月十六日附亞一普通合第一七四號英外相ノ下一、本官ヨリ二月十六日附亞一普通合第一七四號英外相ノ下上線會ニ本件ニ付一切打明ケテ申上ク可シト前提シ着任ノ機會ニ本件ニ付一切打明ケテ申上ク可シト前提シ着任ノ機會ニ本件ニ付一切打明ケテ申上ク可シト前提シ着任以來二年英國ノ對支債務整理問題ニ付テハ一切自分ニ於アラハ利息支拂ヲモ考慮ス可ク利率ハ思ヒ切リ引下ケラアラハ利息支拂ヲモ考慮ス可ク利率ハ思ヒ切リ引下ケラル案ハ提示ヲ受ケタルコト無キ由)真面目ニ取リ合ハンル案ハ提示ヲ受ケタルコト無キ由)真面目ニ取リ合ハンル案ハ提示ヲ受ケタルコト無キ由)真面目ニ取リ合ハントセルニ

ニ來レル次第ナリト述へ

、右ノ如キ支那側ノ手段ハ獨リ債務整理ニ止ラス 居タリ 至レルカ之トテ未タ一文ノ支拂アリタル譯ニハ非ス支那 付テモ同樣ニシテ(客年十一月二十一日附亞一機密合第 ルド」「ジヤーデン、マジソン」等ノ鐵道材料賣込代金ニ 側ハ債務者ノ氣休メヲ狙ヒ居ルモノト思考セラル 一三四三號參照)昨年春ヨリノ間斷無キ努力ノ結果利子 ノ切下年賦償却方法等ヲ關係商社ニ於テ槪略協定スルニ 「アー ト述へ

支、北平へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度

注 電報第三二四号は第33文書

昭和9年4月11日 広田外務大臣宛(電報)在南京須磨総領事より

411

ル提議に対する応酬振り請訓 対中国鉄道債権整理のための日英協調方ビ

酬振ニ付何分ノ儀御囘電相成度 ク」ニ迄進メ度シト述へ居タル次第モアリ本件此ノ上ノ應 合ニ止メ置カレ度キモ其ノ内ニハ之ヲ「フオー 北平へ轉電セリ 3 マル、

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

412

昭和9年4月14日

対中国債権整理には関係国の協調が必要であり 広田外務大臣宛(電報)在中国有吉公使より

英国側提議に応じ関係国による債権者会議開催 を慫慂し整理原則を決定すべき旨意見具申 4月14日後発

本 4月14日後着

第二七六號

一、最近ニ於ケル國民政府ノ財政狀態ハ引上後ノ關稅收入カ 南京發閣下宛電報第三二六號及第三二七號ニ關シ 僅少ノ剩餘ヲ存スルニ過キスシテ政府ハ之ヲ唯一ノ財源 トスル内債ニ依リ一時凌キヲ爲シ銀行側ハ之ヲ以テ唯一 投資物ト看做シ居リ各國側亦貧弱ナル南京政府ノ政費

> テ今囘「ビール」ノ申出ヲ切懸ケニ右ノ如キ一般整理ノ スンハ其ノ可能性ナキモノト思考セラルル次第ナルヲ以 成シ支那ヲシテ着實ニ之ヲ實行セシムル樣仕向クルニ非 テ之ヲ要求シ右現狀ノ下ニ於テ實行可能ナル整理案ヲ作 各國ノ債權ノ外內債ヲモ含メタル內外債全部ノ整理トシ ニ於テ我方對支債權整理ノ實行ハ英國ハ勿論米佛等關係 ナル不確實債務ヲ累加セントスルノ狀態ナルカ右ノ現狀 モ支那側ヨリ胡魔化サレ居ルノミナラス更ニ巨額ノ新タ 結果ハ益々支那ノ信用ヲ破産狀態ニ導キ債務整理ニ付テ 話合ニ依リ何等有利ナル解決ヲ齎サント焦リ居ルモ其ノ シ舊債務ノ整理ニ付テモ各國又ハ各債權者ニ於テ內密ノ 又ハ團匪賠償金ノ抛棄分ヲ目當ニ武器ノ拔駈的賣込ヲ爲

4月11日後着

南 京

4月11日後発

第三二七號

十日「ビール」來訪ノ際鐵道債務整理ノ問題ニ付テ 往電第三二四號及第三二六號ニ關シ

英國及米白等ニ關シ數字ヲ取調タル上再ヒ話合度又來寧ス モ差支無シト答へ置キタリ冒頭往電殊ニ鐵道關係債務整理 可シト述ヘタルニ付本官上海ニ出張ノ際當方ヨリ出向キテ ハ 何レ

等疑問ノ餘地アル處(例へハ英國ハ支那側ニ對シ壓力ヲ强 ヲ目的トスル日英協調説ニ付テハ「ビ」カ如何ノ程度迄新 公使ト聯絡アリヤ又突然我方ニ話ヲ持出シ來レル眞意如何

化スル爲我方ヲ利用セムトスルノ底意アリトモ考へ得可 シ)我方ハ一般債務整理ニ付英國ト同樣重大ナル關心ヲ有

後其ノ他ノ關係アルノミナラス「ビ」カ殊ニ鐵道關係債權 シ居ル次第ナルモ貴大臣發公使宛電報第九一號ノ手順ノ前

整理ニ重點ヲ置キ居ルコトハ我方ノ膠濟鐵道國庫證券內拂

問題ニ關スル主張ニモ至大ノ影響アル可キニ付 ピ トノ

話合ハ餘程機微ノ考慮ヲ要スト思考セラルル處「ビ」 ハ冒

頭往電第三二四號會談ノ際本件ハ當分ノ間友人トシテノ話

二、尤モ英國側カ從來支那ノ債務整理ニ於テ自國債權ノ大部 實行ヲ促進シ且右整理ニ於テ鐵道債務ヲ他ノ債務ト同樣 張シ來リタル經緯ニ鑑ミ今囘「ビール」ノ申出カ英國側 分ヲ占ムル鐵道債權ニ付他ノ債權ヨリモ有利ノ條件ヲ主 促進ノ爲兩國協調ノ途ヲ開クコト然ルヘシト存ス ノ基礎ニテ整理スル樣仕向クル事ニ付テハ相當ノ ノ意嚮ニ基クモノトスルモ之ヲ切掛ニ一般的債務整理ノ 困難有

モノト豫期セサルヲ得ス

三、將又支那ヲシテ右ノ如キ整理案ヲ實行セシムル爲ニハ ルノ順序ニ依ル外無キモノト考へ居ル次第ナリ 再開ヲ慫慂シ大體ノ整理原則ヲ定メ之ニ基キ各國個別的 外米佛等トノ接觸ヲモ謀リ結局先年開催ノ債務者會議ノ 事亦肝要ニシテ當方トシテハ機會有ル每ニ之ヲ說示シ居 那側銀行界等ヲシテ充分其ノ有利且必要ヲ痛感セシムル ル次第ナルカ同時ニ往電第二七一號ノ次第モ有リ英國ノ ノ話合ニ依リ具體案ヲ作リ之ヲ纒メテ一般的整理案ヲ作 支

考量中ナルヘキモ御參考迄 大體前記御含ヲ以テ接觸ヲ進ムル事然ルヘシト存ス旣ニ御 / 意嚮ヲ受ケ居ルヤ乃至其ノ申出ノ動機等更ニ御確メノ上 「ビ」ニ對シテハ冒頭電報ノ通「ビ」カドノ程度迄英國側 尙右ノ如キ具體的整理ノ進行ハ相當時日ヲ要スヘク其ノ キモノニ付テモ同樣手配ヲ爲シ得ヘキ見込ナリ キハ勿論其ノ他個別整理ニ依リ有利ナル解決ヲ遂ケ得 間早目ニ山東鐵道問題ニ關スル相當ノ手當ヲモ行ヒ得

南京へ轉電シ、 上海へ轉報セリ

(欄外記入)

此意見ハ不可ナ

一、英国ノ意向ハ B、仮令支持スルモ支那側ニ於テ債務整理ニハ誠意ナシ 日本ヲ利用スベキモ我主張ヲ支持セサル

ベ

一、元来支那ノコトヲ共仝シテヤル考ハ絕對抛棄ヲ要ス 国トハ異ル 本ハ單独ニテ飽ク迄ツッパルコト而シテ開クベキ路アリ他 占

C、誠意アルモ不可能ナラン

三、ウッカリ共調スルトキ ハ對支關係ニ他 ノコト ニ利用 セラ

413 昭和9 车 4 月 17 日 在南京須磨総立田外務大臣 船領事宛(電報)dより

地位徹底に努め鉄道債権整理などの協調提議 英国に対し満州事変後の東亜における日本の には意見交換程度で対応方訓令

4月17日後10時20分発

第六二號(極秘)

貴電第三二七號及在支公使發本大臣宛電報第二七六號ニ關

─英国邊リカ滿洲事變後東亞ニ於ケル日本ノ地位ヲ正當ニ 次第ナルモ英國側ニ於テハ未タ右ノ如キ認識ニ到達セル 等トノ間ニ實際ニ卽シタル或程度ノ協力ハ之ヲ辭セサル 認識シ來ルニ於テハ我方亦往電第三五號及本大臣發在支 ムルコト肝要ナリ モノトハ認メ難ク旁々此種機會ヲ利用シ專ラ前記往電等 公使宛電報第一○九號等ノ根本趣旨ニ反セサル限リ英國 趣旨ニ依リ滿洲事變後ニ於ケル我方ノ立場ヲ徹底セシ

口我方トシテ債務整理問題ニ多大ノ關心ヲ有シ從テ今後共 兎角列國殊ニ我方ヲ出シ拔ク傾アル實情ナリ又過去ニ於 和五年十一月債權者會議、 要アル次第ニテ(現ニ英國側ハ北平ニ於ケル關稅會議、昭 テ英國ノ意向ヲ代表シ居ルヤ確カナラサルノミナラス假 之カ督促ニ努ムヘキハ勿論ナルカ支那側ニ差當リ一般的 二代表シ居ルトスルモ右申出ノ動機ニ付テハ充分警戒 債務整理ノ誠意アリトモ認メラレス又假ニ誠意アリトス ルモ其ノ能力ナカルヘキト共ニ「ビール」ノ申出カ果シ 天津商業會議所ノ運動ノ際等

> 意ヲ要ス 必スシモ實益ナキノミナラス本件ニ止ラス他ノ問題ニ付 面目ニナリテ「ビール」ノ申出ニ取合フコトハ本件ニ付 提議セル事例一再ナラス)旁々此ノ際我方ニ於テ餘リ眞 英國側等ニ利用セラルルニ終ルノ危險モアリ此點充分留 テ英國側カ法權問題等ニ付一時ノ方便トシテ協同動作ヲ

三而テ英國側カ債務整理問題ニ關スル限リ我方ト協力ス 不利ナラサルヘシ 國カ日本ニ接近シ居ルヤノ印象ヲ支那側ニ與フルコト 迄モナキ義ナリ尤モ此ノ際ト雖モ債務整理問題等ニ付英 解決促進ノ爲有利ナリトスルモ(其ノ疑問ナルコト前記 支那側ノ外力利用策ヲ牽制スル意味ニ於テハ我方ニ (1)ノ通) 之カ爲前記(−)ノ趣旨ニ反セサルヲ要スル ノ誠意ヲ有シ且又我方トシテ之ヲ利用スルコト同問題ノ コト申

四就テハ敍上御含ノ上前記ノ如ク滿洲事變後ニ於ケル 英國側カ日本ニ接近ヲ求メ居ルヤノ印象ヲ支那側ニ與フ ン」ノ交換及極ク概括的ニ(卽チ具体的問題ニ付何等「コ ル趣旨ノ範圍内ニ於テ英國側トノ「インフオーメーシヨ ノ立場ヲ徹底セシムルニ主力ヲ注ク傍ラ債務整理等ニ付 我方

置ニ出ツルカ如キハ結構ナルヘシ) 後半卽チ山東公有財產國庫證券ニ關スル部分ヲ削除シタ 應酬ヲ續ケラレタシ(例ヘハ四月六日附外交部宛公文ノ ンミツト」セサル樣) 卽カス離レス意見交換ヲ行フ程度 ルモノヲ英國側ニ内示シ其ノ結果自然英國側モ同樣ノ 措

因尙貴電第三二八號航空等ノ問題ニ付テモ右ト同樣ノ振合 ニテ應酬セラレ度

冒頭貴電要領(英及米宛合第四一○號)ト共ニ英、 シ英ヨリ露土ヲ除ク在歐各大使及壽府へ又米ヨリ紐育ニ暗 訓令トシテ支へ又參考トシテ北平へ轉電セリ 米ニ轉電

昭和9年5月16 Ħ 広田外務大臣宛(電報)在南京須磨総領事より

414

よび具体的措置などビー 日英協調による対中国鉄道債権整理の基本方針お ・ルより試案提示について

5月16日後発

5月16日後着

第四九一

往電第三二八號ニ關シ

十五日「ビール」本官ヲ來訪シ其ノ後各國ノ鐵道關係債權 訪セリト前提シ ン」公使ノ命令モアリー應貴官ト中間的打合ヲ遂クル爲來 ノ數字及關係各鐵道ノ現狀ヲ詳細研究中ナリシカ「カドガ

一、整理ヲ容易ナラシムル爲日英協力シテ將來ニ於ケル鐵道 三二六號()ノ後段) 收入ノ増加ヲ助長スヘク整理ニ當リテハ關係國ノ債權高 ニ應シ「プロ、ラタ、 システム」ヲ採ルコトトス(往電第

、現在假ニ支那全鐵道收入ヲ「プール」セハ全債務ニ對ス ing interest ノ支拂ヲ迫リ第三段ニ於テ元本ノ決濟ヲ要 可ナルC級ニ分ツコトトシA、B及Cヲ通シ各關係國ヨ 益ヲ擧ケ得ヘキB級、企業トシテ全然價値無ク放棄シテ 現在ノ能率ニ應シ全鐵道ヲ利益ヲ擧ケツツアルA級、 求スルコト然ルヘシ尤モ鐵道ニ依リ一樣ナラサレハ其ノ 地方ニ關係國顧問ノ board ヲ設ケ鐵道行政ノ改善ヲ計 ハ第一段ニ於テ current interest ヲ請求シ次テ default 利子ノ半額ノ支拂ニ當テ得ヘキコトニ着眼シ先ツ日英 「アドバイザー」ヲ入レ必要ニ應シテ南、

ラシムルコト急務ナリト思考ス

415

昭和9年6月29日

粤漢鉄道建設公債に関し発行引受量など香港

上海銀行関与の実情探査方訓令

亭、前記「ライン」ヲ以テ日英間ニ joint action(冒頭電報三 parallel roads ヲ進ム可キ由主張セラレタルニ付自分モ 結論ニ達セリ何レ右行動ノ內容ニ付テハ又相談ニ上リ度 大イニ研究ノ結果日英ハ「格別ナルモ同時且同樣ナル行(をき) 官ト會見ノ際貴官ハ日英兩國ハ destination ハ同ナルモ .中段)ヲ執リ得サルヤヲ充分考慮シ度キ處四月九日貴 (separate) (separate but simultaneous and similar action) \setminus

亞

機密第七五號

昭和九年六月廿九日

外務大臣

田

Pで、本官ヨリハ冒頭貴電ノ御趣旨ニ依リ此シト述へタルヲ以テ ニ申入タル旨及何レ具体案提示ノ節ハ相談ス可シト應酬 四月六日附ヲ以テ外交部ニ對シ不確實債權整理方一般的 スルニ止メ置キタリ ノ際ハ單ニ我方カ

一尚本官ヨリ往電第三二六號ニ關スル整理ノ話合進ミ居レ 長朱起蟄ヲ相手ニ「プレス」シ居ルモ何等效果無シト答。。。。リヤト質ネタル處「ビ」ハ鐵道部財務司長陳燿組債務科 へ居タリ

兀

北平へ轉電セリ

在中華民國

特命全權公使 有吉 明殿

英金庚款公債ニ關スル件

公信第三六○號)ニ依レハ中央、中國及交通ノ三支那銀行ノ 亞一機密合第七一號附屬別紙丁號參照)今次愈々公布セラ 外ニシテ支那ニ於テ外貨建ニテ起債スル新例ヲ開クモノナ 債ハ支那ニ於テ發行セラルルカ故ニ借款團規約ノ適用範圍 粤漢鐵道完成ノ爲英國團匪賠償金返還分ヲ擔保トスル百 外香上銀行モ同公債ノ元利支拂機關トナリ居リ(條例第 リトノ趣旨ヲ申越セル次第アル處(昭和八年七月廿九日附 十萬磅ノ公債發行ニ關シテハ曾テ借款團英國團体ヨリ同公 タル公債條例(本年五月卅日附在南京總領事發本大臣宛

借款國側又ハ香上銀行側ニ釘ヲ打チ置クコト然ルヘシト存 如何ニ依リ先例トシテ「テーク、ノート」スル意味合ニテ 行ノ遣リ口ニ付確證ヲ得置クコト緊要ナルヘシ(其ノ結果 生スルコトナキヲ保シ難キニ付本件ノ實情ヲ探査シ香上銀 銀行側ハ目下支那政府ト交渉中ニシテ未タ詳細條件確定ニ セラル)就テハ香上銀行ノ引受量及其ノ處分方法其ノ他右 用シ同規約ヲモグル新方法ヲ案出セルモノト言フヘク我方 英國ニ於テ起債スルト異ル所ナク唯借款團規約ノ缺關ヲ利(廢2) ケ公募スルニハ到ラサルヘシトノコトナリシ由) 若シ同公 至ラサルモ大体百五十萬磅ノ三分ノ一卽チ五十萬磅ヲ引受 セラル(正金銀行上海支店カ香上銀行ニ問合セタル處香上 銀行ヲ通シ英國側カ買〆應募スルコトトナルニ非スヤト存 條)同行ハ發行引受ニモ當リ從テ同公債ノ相當部分ハ香上 トシテモ將來之ヲ前例トシテ同樣ノ便法ヲ利用スル必要ヲ 債ノ大部分カ英國側ニ歸スルモノトセハ事實上支那政府カ /見地ヨリ參考トナルヘキ事項探査方御配慮相煩度此段申 416

本信寫送付先 紐育

南京、 北平、 英 米 佛

> 昭和9年7月6日 広田外務大臣宛(電報在英国松平大使より

日本代表に対し書簡をもって粤漢および滬杭 対中国四国借款団アディス英国代表より加納 甬両鉄道建設借款の概要説明につい Ť

本 ロンドン 省 7月7日前着 7月6日後発

第三六二號

含スル 款ハ其ノ一部ヲ一九〇八年ノ磅借款未拂額三十萬磅ノ支拂 弗借款計畫ニ關シ現ニ上海ニ於テ話合進行中ナル處右新借 ツル爲銀公司ト British and Chinese Corporationトヲ包 杭州寧波間鐵道未完成區間四〇哩及錢塘江鐵橋ノ工事ニ充〇〇〇〇日の日本では多漢鐵道工事借款ノ概要ヲ述ヘアル外ハ團匪賠償金ニ依リ粤漢鐵道工事借款ノ概要ヲ述ヘアル外 ヲ渡シタリトテ其ノ寫ヲ嘉納ノ參考ノ爲送付越セル處右ニシ談話シタル上「ラ」ノ求ニ從ヒ右要領ヲ書物ニセルモノ 二充ツルモノニシテ滬杭甬鐡道全線ノ收入ヲ以テ之カ擔保 ○ ○ ○ 在中ノ「ラモント」ニ對シ最近ノ支那鐵道問題進捗振ニ關 「アジス」 「シンジケイト」ニ依リ引受ケラルヘキ一千六百萬 ハ四日附嘉納宛書面ヲ以テ「ア」 *Σ*١ 目下當地滯

へキ旨記載シ居レリ右「ア」 卜 スル外鐵道部ノ處分シ得ヘキ一般資金ヲ附隨的擔保トス ノ書翰寫郵送ス

米へ轉電シ佛へ暗送セリ

昭和9年7月7日 広田外務大臣宛 在英国松平大使²

417

する加納宛アディス書簡転送について 粤漢および滬杭甬両鉄道建設借款の概要に関

昭和九年七月七日

機密第三六五號

(8月3日接受)

英

特命全權大使 松平 恒雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

翰及加納支店長囘答ノ寫別添送附スルニ付御査收相成度 店長宛來翰ノ次第アリタルコトハ曩ニ電報セル通ノ處右來 標記ノ件ニ關シ「アヂス」ヨリ七月四日附ニテ加納正金支 支那鐵道問題ニ關スル 「アヂス」ノ内報ニ關スル件

寫送附先

米

(別添甲号)

The China Consortium, Central Agency 9, Gracechurch Street,

London, E.C.3.

July 4,1934.

My dear Kano,

is progress being made in railway affairs in China by local effort. He asked if I would send him particulars of what going forward Lamont is in London and I was talking to him of the

you and I therefore enclose copies projects respectively for (i) the Hankow-Canton I have accordingly prepared two brief summaries of and (ii) the Shanghai-Hangchow-Ningpo Rail-These summaries may perhaps be of interest to Rail-

Yours sincerely,

S. ADDIS

C.

Viscount Kano

Yokohama Specie Bank,Ltd. 7,Bishopsgate, E.C.2.

PROJECT OF LOAN

for continuing the construction of the HANKOW-CANTON RAILWAY.

There is a gap in this line of 250 miles, through difficult hilly country, which the Chinese Government are desirous of completing.

The amount of the original loan (the Hukuang Loan of 1911) was insufficient to provide through service; the revenue of the railway is therefore inconsiderable, and the loan is some years in arrear for both interest and amortization.

The low ebb to which Chinese railway credit has fallen, and the absence of any other reliable security, have made the issue of the subsidiary loan contemplated

in the original loan agreement impossible.

The Chinese Minister of Railways has therefore devised a plan to capitalize part of the half-yearly instalments payable in Shanghai of the British share of the Boxer Indemnity, now being returned to the Chinese Government, as and when received.

A loan of £1,500,000 is contemplated, to be raised in Shanghai, secured on these instalments, with a period of 12 years, i. e., with amortization timed to end with the final indemnity payment.

The loan is being underwritten by the Hongkong & Shanghai Banking Corporation and the leading Chinese Banks. The negotiations have taken place in Shanghai and are believed to be concluded. The issue is therefore imminent.

July 3rd, 1934.

PROJECT OF LOAN

for the completion of the

SHANGHAI-HANGCHOW-NINGPO RAILWAY.

The railway is at present in two sections: (i) from Shanghai to Hangchow which is completed, and (ii) from Hangchow to Ningpo in which there is a gap of about 40 miles. It is proposed to construct this 40 miles of track and to connect the two sections by a bridge over the Chientang River.

The amount of the proposed loan is \$16,000,000, out of which the outstanding balance of the sterling loan of 1908, £300,000, will be repaid.

The loan project is to be undertaken by a Syndicate comprising the British & Chinese Corporation, Ltd., and the Chinese Financial Development Corporation. The latter is a newly formed group of Chinese Banks which has been organized by Mr. Jean Monnet.

中国をめぐる列国との関係

The security for the new loan will be the revenue of the whole railway, free of other lien, with the general funds at the disposal of the Ministry of Railways as

colateral.

Negotiations are still in progress in Shanghai where the issue is to take place.

July 3,1934.

(別添乙号)

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, Ltd.,

7, Bishopsgate, London, E.C.2. 4th July, 1934.

Sir Charles Addis, K.C.M.G.,

The China Consortium,

9, Gracechurch Street, E.C.3.

My dear Addis,

Many thanks for your letter of the 4th instant, enclosing the summaries of projects respectively for (i) the Hankow-Canton Railway, and (ii) the Shanghai-Hangchow-Ningpo Railway, which you were good enough to send me. I am reading these with great

interest.

Yours sincerely,

(Sgd) H. KANO

タル處香上銀行側ハ目下支那政府ト交渉中ナルモ大体三 スルモノト認メラル(正金上海支店カ香上銀行ニ問合セ 香上銀行カ公債ヲ引受ケ投資ヲ英國ノミニテ獨占セント

昭和9年7月14日 在英国松平大使宛(電報広田外務大臣より

418

方見解を加納をしてアディスに通告方訓令 与は四国借款団規約の精神に違反するなど我が 英国側による粤漢および滬杭甬両鉄道借款の供

七月十四日発広田外務大臣より在英国松平大

使宛第二一〇号

7月14日後8時30分発

第二〇九號

貴電第三六二號ニ關シ

⊖百五十萬磅公債ハ支那政府發行ノ公債ニシテ之ヲ英國ニ ヲ支那トスルコトニ依リ同規約ヲモグリ而カモ實際上ハ サルモノナルカ同團規約第二條但書ヲ利用シ公債發行地 テ發行スル場合ハ當然借款團關係國ニ分配セサルヘカラ

> ヲ開キ置クコト然ルヘシ 英國側ノ遣口ヲ先例トシテ「テーク・ノート」シ置キ將 來我方ニ於テ必要ノ場合借款團規約ノ拘束ヲ発カルル道 ハ借款團規約ヲ强化スルカ如キ措置ハ之ヲ避ケ寧ロ今次 覆セサル樣充分警告ノ要アル次第ナルモ他面我方トシテ 精神ニ違反スルコト明白ニシテ英國側カ此ノ種措置ヲ反 トノコトナリシ由)右ハ借款團規約ノ字句ハ兎モ角其ノ 分ノ一卽チ五十萬磅ヲ引受ケ公募スルニハ到ラサルヘシ

口千六百萬元公債ハイイ外貨建ニ非サルコト(口「アンダーラ 持シ成ルヘク借款團關係國ノ共同ノ事業トナスヘキ義務 イト」スル中英公司カ借款團員ニ非サルコトニ鑑ミ右〇 アルニ付右一ト同樣規約ノ精神ヨリ見テ遺憾ナリト ト稍々趣ヲ異ニスルモ英國政府トシテハ借款團團員ヲ支

巨但右千六百萬弗借款ノ方ハ例 上冒頭貴電「ア」來翰ヲ幸ヒ此ノ機會ニ囘答 ノ銀公司カ參加シ居ル ノ形ヲ以テ

月八日附亞一機密第五七八號御參照、尚貴電第三二九號 前段「アデイス」ノ對支投資ニ日本ヲ除外スルハ借款團 銀公司ニ對スル我方見解ヲ明ニシ置クコト然ル ノ精神ニモ返スルモノナリトノ言質モ利用シ得へシト存 (&*) :ヘク(五

四千六百萬弗公債ノ擔保ニ付キテハ在支公使宛往電第二○ 四號ノ通訓令セルニ付之ヲ豫メ加納ヨリ 置クコト然ルヘシ 「ア」ニ通報シ

スルコト能ハストノ意嚮ナリシニ拘ラス(客年六月一日田尙英國側カ舊債整理セラレサル限リ對支財政的援助ニ應 投資ヲ得ラレサルコトヲ悟リ(國際事情第四〇六號十三 附倫敦正金發本店宛借款第六九號、南京發本大臣宛第四 頁等參照)來レル此ノ際對支援助ニ乘リ出スハ昭和六年 整理相當進捗セシ爲ナルヤ又ハ何等カ別ノ動機アル 號末段)前記兩借款ニ關與スルニ至レルハ英國側 七六號等參照)最近ニ至リ其ノ態度ヲ變シ(貴電第三二九 ルヤ不明ナルモ折角支那カ舊債ヲ整理スルニ非サレ 「アデイス」ノ二千七百萬磅借款提議ニ依リ債務整理 (ノ債務 か新 為ナ

> 就テハ敍上ノ次第御含ミノ上加納ヲシテ「ア」ニ對シ書面 往電第一九七號、本年南京宛第三四號及支宛第一〇九號 二口答ヲ以テ前記巨及伍ノ次第ヲ敷衍説明シ客年貴大使宛 電第二一〇號ノ趣旨ヲ申入レシメタル上右書面申入ト同時 ヲ以テ冒頭貴電「インフオーメーシヨン」ヲ謝シタル後別 趣旨ヲ徹底セシムルコトト致度

別電ト共ニ支、 金ト打合セ濟) 北平、 南京へ轉電セ

アリタル趣ニ付同財務官トモ御協議相成度本電大藏省及正

(本件ニ關シ富田財務官ヨリ大藏省宛電報ヲ以テ意見上申

別 電

別電ト共ニ米、

佛

紐育へ暗送アリ度シ

7月14日後8時0分発

第二一○號

☆粤漢鐵道百五十萬磅公債ハ英貨建ニシテ且英國銀行カ 款團關係國ノ一國ノミノ投資ヲ容易ナラシムルカ如キ措 スル投資ヲ容易ナラシムル結果トナルヘキ處斯ノ如キ借 「アンダーライト」スル趣ニシテ右ハ英資ノ同公債ニ對

交渉ニー頓挫ヲ來セル轍ヲ履ムモノト言フヘシ

異見ヲ有スル次第ニハ非ス モ英貨建且英國銀行ノ「アンダーライト」ニ拘ラス支那 セラルル公債ニ適用ナキハ勿論ニシテ本件公債ニ付キテ ヤ否ヤ疑問ナキ能ハス尤モ借款團規約カ支那ニ於テ發行 置ヲ以テ借款團規約ノ精神ニ合致スルモノト認メ得 ニ於テ發行セラルルヲ以テ借款團規約ノ適用範圍外ナリ ト爲ス貴見卽チ客年二月七日附野原宛貴翰ノ趣旨ニ對シ ヘキ

口敍上ノ點ハ大体ニ於テ滬杭甬鐵道千六百萬弗公債ニ付キ テモ言ヒ得ヘキ所ナルヘキカ更ニ

闫中英公司ト共ニ「シンヂケート」ヲ組織スヘキ Chinese 所ナキ次第ナリ 日附書翰ヲ以テ野原ヨリ貴下(ア)ニ申入レタル處ト異ル 對スル日本側ノ考へハ財政諮問委員會ニ付客年七月卅 ポレーシヨン」計畫ノ變形トモ認ムへキモノニシテ之ニ 見ニ依リ抛棄セラレタル旨ヲ通報アリタル國際的 ヲ除キ現存借款團ト重複スルニ過キサルヘシ」トノ御意 十九日附書翰ヲ以テ貴下(ア)自身ノ「日本ヲ除外スル點 Financial Development Corporation ハ野原宛客年七月 7 7 1

四尙滬杭甬鐵道借款カ general funds at the disposal of

Ministry of Railwaysヲ擔保トストノ點ニ付キテハ右 ヲ侵害セサルモノナルコトノ保證ヲ取付クル所存ナリ ヲ得タル上支那政府ヨリ正金銀行ノ五分利鐵道公債契約 (日本側他ノ債權者モ同樣ノ見解ナルヘシト思ハル) 「一般的基金」カ何ヲ意味スルカ更ニ「プレシジョン」

日

昭和9年7月14 在英国松平大使宛(電報広田外務大臣より

419

日英協調問題などを裁量により加納をしてア 対中国債権整理に関する従来の経緯ならびに

ディスに説明方訓令

七月十四日発広田外務大臣より在英国松平大 使宛第二一四号

右説明要領

7月14日後6 **時**30分発

第二一三號

最近ノ行政院決議ニ依リ促進セラル 有吉公使歸任ニ依リ債務整理交渉再開セラルヘク右交渉ハ ンシアル、タイムス」ノ記事ニ關シ「アデイス」ヨリ加納 ヘシト ノ倫敦「フイナ

二問合セアリ加納ヨリ正金本店ニ眞相問合セアリタル由ナ

記口乃至巨御含ノ上別紙第二一四號ノ趣旨ヲ加納ヨリ「ア」 右ハ强ヒテ「ア」ニ囘答ノ要ナカルヘキモ御裁量ニ依リ左 ニ内話セシメラルルコトト致度

二卷第十四章第一節御參照相成度但同節三及四ノ部分ハ⊖別電中⊖從來ノ經緯ニ付キテハ昭和七年亞一議會調書第 英國側ニ内話セラレサル樣致度

□別電□ハ往電第二○九號ノ申入レ殊ニ同電回ノ對支援助 カ其ノ時期ニ非ストノ點ヲ說明スルヲ目的トス

問題ニ付別段英國側トノ提携ヲ希望スル次第ニハ非サル 號(合第四一一號)ニ依リ御承知ノ通我方トシテ債務整理 問題ニ付一層我方ニ賴リ我方ノ意見ヲ尊重スル樣誘導ス **モ英國側カ其ノ重要視スル債務整理問題ニ付旣ニ我方ト** 八號)ノ經緯ヲ指スモノニシテ(但「ビール」ノ名ハ「ク ルヲ目的トス ノ提携ヲ求メ居ル事實ヲ指摘シ對支援助其ノ他一般支那 -ト」セラレサルコト然ルヘシ)本大臣發南京宛第六二

> 別電ト共ニ米、 別電ト共ニ支、 北平、 紐育へ暗送アリ 南京へ轉電セリ 度シ

別

第二一四號

7月14日後6時30分発

─對支不確實債權整理ニ關シテハ關稅會議以來我方ノ最モ 出シ引續キ督促中ナルカ未夕何等具体的進展ヲ見ス 緯ヲ詳述シタル上交渉再開方ヲ要求スル趣旨ノ公文ヲ提 第ナルカ本年四月上旬在支公使ヨリ外交部ニ對シ前記經 熱心ニ交渉シ來リタル所ナルモ昭和六年以後中絕セル次

口行政院ノ決議云々ニ關シテハ五月三十日南京漢字紙ニ 査ノ上合法的性質ノ債務ニ付債權國側ト協議ヲ進ム トスル旨ヲ演説セル由ニシテ旁々此ノ際關係列國側ニ於 行政院ニ於テ汪院長ハ外資誘致ノ爲ニハ舊債整理ヲ必要 テ假ニ事實ナリトスルモ當ニナラス尤モ去ル二月十九日 果、財政、鐵道、交通各部ノ對外債務ノ種類及金額ヲ審 『行政院ニ於テ外債整理ノ爲關係各部ヲ召集シ討議ノ結 トナリタル旨』報セラレタルコトアルモ眞相不明ニシ ルコ

意スル要アリト思考ス 共ニ列國ニ於テ支那側ノ外資引入ノ術中ニ陷ラサル樣注 テ今後共舊債整理カ先決問題ナルコトヲ痛感セシムルト

闫尙對支債權整理交渉ニ關シテハ最近在支英國官憲ヨリ テ情報交換方申出アリ前記(一ノ經緯モ英國側ニ通報セラ 支日本官憲ニ對シ日英提携スル以外交渉促進ノ途ナシト レタル筈ナリ 在

420 昭和9年7月24日 広田外務大臣宛(電報)在南京須磨総領事より

と粤漢鉄道との連絡を主張との情報について 広九鉄道契約更改の条件として英国側は同鉄道

本 省 京 7月24日後着 7月24日後発

第八二四號

國側ト折衝ノ結果該鐵道收入ノ分配率ヲ英國側二八%、 問題ニ付テハ鐵道部派遣代表張參事(慰慈)等香港ニ於テ英 鐵道部會計長張競立ハ廿四日本官ニ對シ廣九鐵道契約更改 那側七二%トスルコトニ假協定ヲ結ヒ鐵道部ニ請訓シ來リ 支

> 張シ居ル爲鐵道部ハ右實施ニ依ル國防並ニ廣東貿易上惹起 タルカ英國側ハ右條件トシテ粤漢、黃九兩鐵道ノ連絡ヲ主 スヘキ影響ヲ考慮シ未タ決定ヲ差控ヘ居ル旨内話セリ

> > 530

支 北平、 廣東、香港へ轉電セリ

昭和9年8月8日 広田外務大臣宛在英国松平大使と より

421

対中国債権整理に関するアディス宛加納覚書 転送について

機密第四二九號

(9月15日接受)

昭和九年八月八日

在

英 特命全權大使 松平

恒 雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

對支債權整理問題ニ關スル件

付右報告申進ス 本件ニ關シ御訓令ノ次第ニ從ヒ八月三日 メモアール」ヲ手交シ置キタル由加納ヨリ報告アリタルニ リ「アヂス」ニ對シ別紙ノ通內話ヲ爲スト共ニ「エード、 加納正金支店長ヨ

本信寫送附先 佛 米 紐育 支 北平 南京

別 紙

AIDE MEMOIRE

rupted in 1931. other creditor countries since the day of the Special Customs Conference, but the negotiation was interearnestly negotiating with China in conjunction with Loans to With regard to the readjustment of the unsecured China, I understood that Japan had been

responded in spite of our pressing demand for a reply. for Foreign Affairs at the beginning of April last to that however, effect, but up to the present time, the Ministry has not Ariyoshi, the Minister to China, notified the Ministry An Article appeared in the Chinese press, According to the information I received recently, in order to revive the conversations, dated Mr.

May 30th, at Nanking, regarding the resolution of the

Administrative Bureau. According to this

were deemed legitimate." the creditor countries, relative to their debts which as to the classification and amounts of the foreign ments of Finance, Railway and Communications, that examination would be made by the Departdebts, and to proceed to enter into negotiation with assemble. As the result of discussion it was decided Administrative Bureau ordered all ministries to "In order to readjust the Foreign Loans,

can we place much reliability upon it, even though the resolution was passed. There is no authenticity as regards the article, nor

in order to invite Foreign Money to China." ly necessary to consolidate the existing Foreign Debts, Bureau, said in his speech to the Bureau, Wang Chao Ming, the President of the Administrative without notice, and that is, on February 19th, However, there is one thing which we cannot pass "It is absolute-

I think it is of the utmost importance for the creditor countries to impress upon China that the readjustment of the existing Foreign Debts is sine qua non of the new foreign investment. Other countries should not be drawn into fresh loan talks unless the means of readjustment are established.

3) Recently the British Government Authorities in China are said to have expressed the view to the Japanese officials in China, that Anglo-Japanese cooperation was particularly necessary in the matter of the negotiation of debt readjustment, and wished for an exchange of views and interchange of news relative to the matter.

I also learned that the Japanese officials minutely informed the British Authorities as to the matter mentioned (1).

本信寫送附先

紐育

支

422 昭和9年8月8日 広田外務大臣宛 在英国松平大使より

解を説明したアディス宛加納書面転送について旧債整理と新投資の関係の三点に関する我が方見粤漢および滬杭甬両鉄道借款、中国建設銀公司、

機密第四三〇號

(9月15日接受)

昭和九年八月八日

在英

特命全權大使 松平 恒雄〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

粤漢及滬杭甬鐵道借款ニ關スル

シ置キタル趣加納ヨリ報告アリタルニ付右報告申進ス通內話スルト共ニ右ヲ「エード、メモアール」トシテ手交紙乙號ノ通對支借款ノ時期ニ關スル我方見解ヲ別紙丙號ノ日同氏ヨリ「アヂス」定對シ銀公司ニ對スル我方見解ヲ別ヨリ「アヂス」宛別紙甲號ノ通書面ニテ申入ルルト共ニ同コリ「アヂス」宛別紙甲號ノ通書面ニテ申入ルルト共ニ同本件ニ關シ御訓令ニ從ヒ八月三日附ヲ以テ加納正金支店長

(別紙甲号)

3rd August, 1934.

Sir Charles Addis, K.C.M.G.,

The China Consortium,

9, Gracechurch Street, E.C.3

My dear Addis,

Re the Hankow-Canton Railway Loans, and the Shanghai-Hangchow-Nimpo Railway Loans.

Please refer to your letter of the 4th July. I have now received the following instructions from my Principals in Tokyo.

The Japanese Group wish to express their gratitude to your goodself for furnishing them with information in connection with the two railway Loans, and beg to avail themselves of the opportunity to convey to you their own views.

1.It seems to the Japanese Group that the British Group alone enjoy the advantage of floating the Hankow-Canton Railway Loan of £1,500,000, seeing that

the issue is in Sterling, and that the underwriting is undertaken by British Bankers. The Japanese Group doubt whether it is in accordance with the spirit of the Consortium that only one country or party in the Consortium membership should enjoy this privilege.

They have, however, no intention of raising any objection. They understand that loans floated in China are outside the scope of the Consortium, and appreciate the view expressed in your letter of February 7th, 1933, addressed to Mr. Nohara, in which it is explained that all loans issued in China fall outside the scope of the Consortium business, even though such loans be issued in Sterling and are underwritten by British Bankers.

2.As for the Shanghai-Hangchow-Nimpo Railway Loan of \$16,000,000, there is no reason to object to this in the matter of form, for the same reason that is given above if the loan in question is floated in China. But the Japanese Group consider that the China Financial Development Corporation, which forms a syndicate

with the British & Chinese Corporation, is but a transformation of the once-proposed International Corporation. You will doubtless remember that you advised Mr. Nohara about the proposed scheme of the International Corporation in your letter of July 19,1933, and Mr. Nohara conveyed to you the objection of the Japanese Group in his letter dated July 31, 1933. The Japanese Group are still unable to get rid of the apprehension that the new Corporation will be injurious rather than beneficial to the rehabilitation of Chinese finance, and to the future business of the Consortium.

3.Among the securities for the Shanghai-Hangchow -Nimpo Railway Loan, they notice the inclusion of "the general fund at the disposal of the Ministry of Railways". The Japanese Group cannot understand clearly what kind of fund this is, so they are going to make enquiry to the Chinese Government, in order to obtain the precise definition. In case of necessity, the Group might claim an assurance from the Chinese Government

that the offer of that security does not impair the right of the bondholders of the 5% Chinese Government Railway Loan of 1911, which was agreed between the Chinese Government and the Yokohama Specie Bank on March 21, 1911. It may be added that naturally the Japanese creditors are much concerned about this matter in respect of the priority of the existing loans.

Yours sincerely,

(別紙乙号)

AIDE MEMOIRE

1. The Corporation's function harmful

The Japanese Group cannot foresee what practical work the Corporation will perform in the sphere of the foreign investment to China, but in fact fears that whatever the Corporation does in that sphere, will prove injurious to China.

As you know, there exists at present, an inclination on the part of Chinese capital to approach Foreign

Captain and to seek some means of connection with Foreign Capital, simply with the view of securing its property from the exploitation of the Militarists. Even the Sino-foreign joint concern, is not exempt from this exploitation. On the other hand, it is characteristic of Chinese capital that it is connected more or less with some militarist or some political power.

The China Development Finance Corporation, we are afraid, will not be an exception to this general rule, and there are potentialities of its becoming a tool in the political struggle, and a means of fostering internal trouble in China.

2. The Corporation as the Consortium's competitor.

The business of the Consortium is the financial assistance of China, and the Japanese Group finds that foreign investments made through the Corporation aim at the same thing. The only difference is that by the latter method Foreign Investors supply China with the funds and credit for materials through the corporation

which takes the form of a public issue in China or a private issue in any locality, while the function of the Consortium is limited to cases of public issue in the markets outside China, for lending money to the Chinese Government, whether Central or Local or to any Companies in China. Viewed from this angle, therefore, though differing in the matter of formality, the investment through the channel of the Corporation will form a new Competitor of the Consortium, and make the agreement of the latter eventually a dead letter.

3. The Corporation against the rule of equal opportunity

The Consortium practices the principle of equal opportunity. The Groups concerned have the right to equal shares at the time of the public issues. The Consortium is opposed to the action of any one country forestalling the others. In short, the Consortium in its ideas is somewhat similar to the nine power treaty of Washington. The Japanese Group deems any financing

of investment arranged through the Corporation to be an infringement of the Consortium agreement in spirit, although in formality, it is permissible so long as the Corporation does not submit to public issues in the markets outside of China. Under this disguise, any one group of the Consortium can forestall others, if it so wishes

The original idea of Mr. Monnet, so far as we gather, is to gradually induce the formation of a certain "criterion" or steeping stone of investment in China, which might ultimately develop in establishing a sphere of influence. If this is so, it is not at all in conformity with the aspirations of the Consortium. Finally, and especially, his idea of the exclusion of Japanese interests in the investment through the medium of the Corporation, is not in its principle acquiescent with the Consortium, in which your goodself, Lamont and de la Chaume agree.

(別紙丙号)

AIDE MEMOIRE

The consolidation of her existing Foreign Debts is a matter of the first importance for China, if she desires fresh investments.

(1) China's conception

China realizes the difficulty of getting fresh investment unless some means for the consolidation of her existing Foreign Debts are schemed. (Ref. Annual business report (1933) The Bank of China, Chapter I, Preface C, Foreign Credit).

(2) Great Britain's policy.

We are told that the British official representative informed the Japanese official representative in China, that your Government can give financial assistance only on condition that China intends to consolidate her existing Debts.

(3) Your own attitude.

I understand by your letter addressed to Mr. Nohara

some time in May 1933, that you are in agreement with the above idea.

- (4) The Japanese Group's comment.
- (a) The Japanese Group hope the proposal for a new loan of \$16,000,000 by the China Financial Development Corporation will not retard the Chinese consolidation scheme of the old Debts. The reason why the Japanese Group is concerned in this connection is that it remembers that some time early in 1931, your proposal of a loan led China to abandon the consolidation scheme, which at that time was making some progress.
- (b) The Japanese Group still thinks it inopportune to proceed to render financial assistance at this time, when China has not yet awakened to the real meaning of the re-adjustment of existing loans.

昭和9年8月16日 広田外務大臣宛(電報)

423

加納書簡に対し四国借款団規約は遵守すべき

受けないとの見解をアディス回答についてだが外国銀行の一般的業務については束縛を

ロンドン 8月16日後発

本 省 8月17日前着

第四五二號

銀公司問題ニ關シテハ近ク來英スル 三日附嘉納ノ書面及説明ニ對シ十日「アジス」ヨリ囘答ア モ徴スル考ナル旨申越セル趣ナリ委細郵報 ラス協力スヘキ外國銀行ヲ指定スル 合ニハ外國銀行ノ單獨協力ヲ阻止スヘキニアラサル ノ意見ナルカ中國貨發行ニシテ一般的銀行業務ニ屬スル場 ルヘシ尙自分ハ借款團ハ規約ニ從ヒ團体行動ヲ執ルヘシト ノ公債程度トナラサル限リ再ヒ外國市場ニ賣出ス希望ナカ ル次第ナルモ鐵道公債ノ市價カ善後借款ノ如キ純粹ノ政府 ルニ付差當リ部分的解決方法トシテ今囘鐵道問題ニ集中セ ムヘシトノ意嚮ニハ贊成ナルカ之ニハ長日月ノ調査ヲ要ス リ支那ノ一般的改造計畫中ニハ當然一切ノ外債整理案ヲ含 往電第四四一號ニ關シ(對支債權整理問題) 佛へ轉電セリ ハ支那ノ任意ナリ尙又 「モネ ー」氏ノ意見ヲ ノミナ

米ヨリ 紐育へ轉報アリ度シ

昭和9年8月17 \exists 広田外務大臣宛(電報)在中国有吉公使より

424

借款は新投資にあらずとビール反論について 団規約の精神に反するとの我が方見解に対し同 英国側による滬杭甬鉄道借款の供与は四国借款

8月17日後発

本 8月17日後着

第六六五號

英發大臣宛電報第三六二號ニ關シ(鐵道收入擔保ノ對支借 款契約ノ件)

點ヲ擧ケ元來此ノ種契約ヲナスニハ舊債整理進捗スルカ其 保トスル カ借款團協定ノ精神ニ反スルコトナキヤ將又一般收入ヲ擔 アリ須磨來滬ノ序ヲ以テ十六日同人ヲ往訪シ滬杭甬新借款 シ鐵道債務ニ關スル日英共同利害ノ話ヲ持出シ居ル經緯モ 「ビール」ハ近ク賜暇歸國ノ豫定ニテモアリ豫テ須磨ニ對 他適當ノ事由ナキ限リ了解ニ苦シム次第ナリト述へタル トキハ他ノ借款支拂ニ支障ヲ來スコトナキヤ 2

尚調査ノ結果一九〇八年滬杭甬借款契約中ニ將來資金見當 交渉中ノ次第モアリ公式ニ政府ノ考慮ニ入レ居ラス ヲ遂ケ居ル模樣ナルカ現在尙一千六百萬圓元ニ決定ノ話合 御答スへシト答へタルヲ以テ十七日須磨再ヒ同人ヲ往訪セ 單ナル義務ノ履行ナリヤ疑問無キ能ハスト述へ 作ルコトハ豫テ話合ノ借款團囘避ヲ企ツルモノト解セラレ 假ニ然リトスルモ中國銀公司ト協同シテ新ナル投資機關ヲ 次第同鐵道ノ完成ハ英國側ニテ出資スヘキ旨ノ規定アリ右 ヨリスルモ前記須磨申出ノ二點ハ篤ト考慮ノ要アリト答へ セヨ中國銀公司ト關係スルコト 無ク今囘ノ新借款モ何等他意アル次第ニアラスト辯疏シ居 スヘシト答へ尙英國ノ對支債務整理ハ何一ツ成功セルモノ テ更ニ此ノ點ハ自分モ同感ナレハ篤ト 投資ト稱スヘキモノニアラスト述ヘタリ右ニ對シ須磨ヨリ ニ依ル義務トシテ今囘ノ新借款成立ヲ見タル次第ナレハ新 トシテハ須磨申入ニ同感ニシテ英國ノ一般債權保護ノ立場 ル處「ビ」ハ「アデイス」ニ於テ政府筋ト本件大体ノ活合(論で) ービ ル趣ナリ「ビ」ハ最後ニ英國カ其ノ投資ニ依リ ハ事實上本件ニ付承知セストテ關係者ト談合ノ上 ハ日本ノ反對スル所ナリヤ 政府ニ申送ルコトト 「ビ」ニ於 間接ニモ ゛

ル 趣ナリ 如キ銀公司ノ變形ハ御互ニ警戒ノ要アリト應酬シ置キタ 質シタルニ付須磨ヨリ豫テ話シタル通リ借款團囘避トナ

北平、 南京ニ轉電セリ

425 昭和 9年8月20日 広田外務大臣宛在英国松平大使より

粤漢鉄道借款や中国建設銀公司などへの我が方

談で得た印象に関する加納報告送付について 見解に対するアディス回答ならびに同人との会

昭和九年八月二十日

機密第四四九號

(接受日不明)

在英

特命全權大使 松平 恒雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

アヂス」ニ書面及口頭ヲ以テ我方ノ見解ヲ開陳シタル次第 本件ニ關シ曩ニ加納正金支店長ヨリ「サ 本月八日附機密第四二九號及第四三〇號閣下宛拙信ヲ以 粤漢及滬杭甬鐵道及對支債權整理問題ニ關ス チヤール ル件 ス、

> リ別紙甲號寫ノ通囘答アリタル旨竝ニ加納氏カ「アヂス」 シノ次第アリタルニ付右寫御送附申進ス御査閱相成度シ ヨリ得タル印象ハ別紙乙號寫ノ通ナル旨加納氏ヨリ報告越 テ及報告置キタル處今囘右ニ對シ「サー、 本信寫送附先 紐育 支 北平 チヤ 南京 ルス」ヨ

(別紙甲号)

The China Consortium

9, Gracechurch Street, London, E.C.3.

August 10,1934

My dear Kano,

that they con-note the same ideas for all of us hope to get behind the mask of formulas and be randa of August 3. exchange of views contained in your letters and memoam very much obliged It is only in this way that we can to you for the frank sure

situation is already showing signs of improvement. segregating and concentrating upon the rehabilitation wisdom to attempt a partial solution of the problem by suggested that, in the interim, it might be the part of prolonged investigation and delay. magnitude and extent cannot be carried out without evident, however, that an operation of this order all the outstanding Government foreign debts. It China necessarily involves a consolidation scheme for their revenues, to enhance their aggregate value and economies in the working of these lines and, by pooling nucleus in Shanghai, would be to effect considerable administration of the several railways, which find their appears to be a fair prospect) the result of linking-up the There can be no doubt, that if the co-operation of the and extension of the existing railways. Chinese Banks could be obtained (and of this there thus offer to the bondholder a superior form of security I agree that any general plan of reconstruction for We have therefore The military ofis:

> means of promoting and facilitating the larger operaimproving the general credit of China be an important plan(and I would like reconstruction I submit that this modest and tentative far from being incompatible with the general policy of markets being again re-opened to Chinese finance. Reorganisation Loan, I see no hope of level of the purely the Chinese Government) brought up more nearly to railway loans (which are also unconditionally secured by for his investment. Until we can see the quotation for government you to consider this) might, bonds, such as the the foreign the

In referring, as I have done, to the co-operation of the Chinese Banks I have in mind the view for many years advocated by the Consortium, that it is essential that China should be encouraged to work out her own salvation by financing reforms so far as possible out of her own resources, recourse being had to foreign finance only by way of complement.

The recent sterling issue in Shanghai may be cited as a case in point. The remitted portion of the British Boxer Indemnity forms the security. It is expressed in Sterling and the loan is accordingly denominated in that same currency. But the resources are the resources of China itself. The loan was a great success, and, with a continuance of cheap money in Shanghai, it is hoped it may pave the way for subsequent issues in local cur-

I have always held that the Consortium should be maintained by the Groups in the spirit as well as in the letter of their common agreement, but then I should hold just as stoutly that it would be very bad policy on the part of the Groups to attempt to fetter the discretion accorded to the several units to engage in any transactions comprised within the category of ordinary banking transactions, or which does not call for a foreign issue. But it must not be forgotten that, when local loans are concerned in which no foreign issue is in question, it

does not lie with any foreign bank, invited by the Chinese to co-operate, to determine who should be the other participants. That must necessarily depend upon the decision of the Chinese and not of the foreigner. It may be possible to influence their choice but not to compel it.

I note what you say about the China Finance Development Corporation and our association with it for a particular purpose. It was described to us as a combination of Chinese bankers without political aims, but we shall be able to explore this further in detail after the arrival of Monsieur Monnet, who is expected here in a few days from Paris.

Yours sincerely

C.S.ADDIS

Viscount H. Kano

The Yokohama Specie Bank, Ltd.

7, Bishopsgate, E.C.2

モ講シ居ラサ

ル實狀ナリト

述へ居タリ

(別紙乙号)

昭和九年八月十三日

横濱正金銀行倫敦支店支配人

加納 久朗

在英帝國大使

松平 恒雄閣下

事ヲ兼ネ氏ノ意見申越候右寫同封供貴覽候 小生カ同氏ヨリ得タル印象ニヨレハ /月三日「アヂス」氏宛弊信並ニ手交セル三覺書ニ對シ返

(一)同氏ハ失張リ支那ノ現狀ハ改善サレタリト | 認識ヲ

固

持シ居ル事

(二)同氏ハ支那銀行カ政治的軍閥的色彩ヲ有ストナス當方 ノ意見ニ耳ヲ傾ケサル事

(三)同氏ハ共匪軍匪ノ跋扈ノ下ニアル支那現狀ノ認識不充 分ナル事

(五)同氏ハ支那銀行團ナルモノカ借款團ト協力シ得ルモノ (四)同氏ハ支那銀行カ利已的ナル點ヲ認識セス支那國家ノョニ 救濟ニ乘出シ得ルモノト思ヒ居ル事

ト思ヒ居ル事

(六)同氏ハ英國側ノ新ニ借款ハ庚子賠償金即チ支那自身ノ 財源ニヨルモノニシテ支那自力更生ノ緒ヲ開クモノナリ トノ苦シキ辯明ヲナシ居レリ

(七)上海ノ低金利ヲ利用スル弗貨借款ハ引續キ可能ナル シト仄メカセル事

(八)同氏ハ借款團ハ精神ニ於テモ實行ニ於テモ協力スヘキ ナルモ中國貨發行且純ナル金融業的行爲ナル場合ニハ敢 持シ居ル事 テ反對スヘキニ非ストノ英國側ノ自分勝手ナル處見ヲ固

キコトモ之有可シ) (尤モ此點ハ他日日本側同一ノ態度ヲトル場合ニ都合ヨ

(九)同氏ハ支那側カ特ニ目指シテ或ル外國銀行ニ協同行動 ヲ申込ヲ受ケタル外國側ハ拒絕ノ必要ナカラント キ辯明ヲナシ居レリ ノ苦シ

以 上

426 昭和9年8月21日 広田外務大臣宛(電報)在南京須磨総領事より

国総領事に説明について 款団規約の精神に反するとの我が方見解を米 英国側による滬杭甬鉄道借款の供与は四国借

京 8月21日後発

本 省 8月21日後着

第八七○號

借款契約ノ件) 支發貴大臣宛電報第六六五號ニ關シ(鐵道收入擔保ノ對支

飽キ氣味ニテ本件ニ付テモ餘リ關心ヲ有セス從テ何等對策 精神ニモ影響アル事ナレハ貴見ヲ再應公使ニモ報告シ置ク トシテ公使ニ報告シ置キタル次第ナルカ成程借款團協定ノ 年ノ契約ノ延長ニ過キスト思考シ其ノ見地ヨリ單ナル情報 二對スルト同樣ノ應酬ヲナシタル處「ペ」ハ右ハ一九〇八 二十一日「ペツク」本官ヲ來訪シ先方ヨリ滬杭甬鐵道ニ對 スル對英借款ニ付訊ネタルヲ以テ本官ヨリ冒頭電報「ビ」 シ借款團關係ノ米國銀行殊ニ「ラモント」 ハ多少支那ニ

> 支 北平へ轉電セリ

427 昭和9年9月3日 広田外務大臣宛(電報)在中国有吉公使より

滬杭甬鉄道借款の契約概要に関する中英公司

社員の内話について

上 海 9月3日後発

本 9月3日後着

第七二六號

完成費ニ充當スルコトトナリ現金ハ主トシテ支那銀行團ヨ 二千萬元ニ增額シ中英公司ニ對スル舊債ヲ完濟シ殘額ヲ以 款交渉モ手間取リタルカ原案ニ依ル借款額一千六百萬元ヲ リ出資シ英國ハ香上、 テ錢塘江架橋工費(上海銀行團ト話合濟)ヲ含ム滬杭甬鐵道 込トシテ内話スル(所)ニ依レハ英國側トシテハ一九〇八年 ビー」(主トシテ滬杭甬新借款交渉ニ當リ居ル者)ヨリノ聞 往電第六六五號ニ關シ(鐵道收入擔保ノ對支借款契約ノ件) ノ舊債償還後ナラテハ新借款ニ應シ得サル事情ニアル爲借 「フレーザー」カ來滬中ノ須磨ニ對シ中英公司「ブース 怡和ノ二社ノ參加ヲ求メ材料供給建

館ニ轉報シアルニ付貴行倫敦支店ニ於テ大使館ニ御相談ア

ネー」提案ニ對スル應酬振ニ關スル電報等モ隨時在英大使

ラハ所要ノ情報ハ勿論當方意嚮等モ充分説明申進スルコト

九日附「アテイス」加納支店長間ノ往復文書ヲモ考慮ニ入

レテ作成セル

モノ

ナルカ之ヲ其ノ儘英國側ニ申入ルル

附貴信第九/二六號ヲ以テ御送付相成タル六月十一日及十

右可然倫敦支店へ御轉達相成度追テ別紙ハ本年七月十七日

ト存スルモ爲念當方意嚮概要別紙ニ記載シ置キタリ就テハ

係者ニ於テ誇負シ居ル趣ナリ 設工事ハ主トシテ怡和洋行ニ於テ引受クルコトトナレ ナリ尙借款成立ハ中國銀公司成立以來最初ノ收穫トシテ關 ル趣

南京、 へ轉電セリ

昭和9年10月26日 在英国松平大使宛広田外務大臣より

428

の間隔に鑑み加納をして我が方認識を各方面 アディスの中国に対する認識と我が方認識と に徹底方訓令

七月十七日付大久保(利賢)横浜正金銀行副 対中国認識に関するアディス来信ならびに加 取より桑島(主計)東亜局長宛第九/二六号 納返信の送付につい

亞一機密第一三〇號

昭和九年拾月廿六日

外務大臣 廣田

特命全權大使 松平 恒雄殿

> 納ヨリ正金本店ニ對シ九月三日倫敦「タイムス」記事ニモ 位ニテモ可ナルヘシト申聞ケ置キタル趣ナル處今般更ニ加 充分ナラサル點ナキニ非ス尤モ正金ノ意見トシテナラハ之 納ノ囘答ハ概シテ肯綮ニ當ルモノト認メラル、モ未タ以テ リ度キ趣ヲ以テ當方ノ指示ヲ求メ來リタルカ係官ヨリ右加 就テハ右御含ノ上加納指導方可然御配慮相成度此ノ段申進 考慮ニ入レ別紙桑島東亞局長發大久保副頭取宛亞一機密第 英國財界方面ノ空氣報告旁々之ニ對スル日本及上海方面ノ 關聯シ英國財界方面ノ支那問題就中對支援助問題ニ對スル 翰及同十九日附加納復翰寫送付アリ當時右加納ノ囘答(同 先般横濱正金銀行副頭取ヨリ六月十一日附「アデイス」來 ルニ付前記本年六月ノ「アデイス」加納間ノ往復文書ヲモ ル囘示振ニ付正金頭取席ヨリ當方係官ニ指示ヲ求メ來リタ 意見ニ付問合セアリタル趣ニシテ右ニ關シ倫敦支店ニ對ス 一九一六號ノ通指示シ置キタリ 人ノ私見ト斷ハリ居レリ)ニ關シ本店トシテノ意見ヲ申送

本信寫送付先 米 佛 紐育、 壽府、 支 北平、 南京

別

ニハ非スシテ之ヲ骨子トシテ機會アル每ニ適當ノ形ニテ英

亞一機密第一九一六號

昭和九年拾月廿六日

外務省東亞局長

御相談アリタル趣ノ處支那時局ニ關スル電報其ノ他「モ 告寫御送付相成ルト共ニ右ニ對スル囘示振ニ付當方係官ニ 就中對支援助問題ニ對スル意嚮ニ付貴行倫敦支店ヨリノ報 倫敦「タイムス」記事ニモ關聯シ英國財界方面ノ支那問題 十月八日附貴信第九/四三號ヲ以テ支那中央集權ニ關 横濱正金銀行副頭取 支那問題ニ對スル英國側意嚮等ニ關スル 大久保 利賢殿 ス

桑島 ル ラル ルニ付其ノ邊ノ振合ハ倫敦支店ニ於テ在英大使館ト協議セ 國側各方面ニ我方主張ヲ徹底セシメラレ度キ當方ノ希望ナ ルニ付右爲念申添フ 、樣致度尚大使館ニ對シテハ必要ノ訓令ヲ發シ置キタ

一、最近一、 二年ノ事態ヨリシテ支那カ平和ニナリツツアリ 以テ前途ヲ樂觀スルカ如キハ全然素人ノ見解ニシテ最近 ノ事態ヲ以テ永續的ナリトナスヘキ根據ナシ ノ如キ一時的好轉ハ民國成立以來何囘モ繰返シ居リ最沂 ノ觀測ヲ爲スモノアルヘキモ支那時局ノ一時的好轉ヲ

州湖南湖北等ニ於テハ益々其ノ勢力ヲ增大シ掃共事業 テハ活動範圍稍縮少セルヤノ感アルモ四川ヲ中心トシ貴 性ハ從前通ニ存スル次第ナリ殊ニ共匪ハ江西省方面 等カノ「チヤンス」ニ依リ國內ノ亂動ヲ發生スヘキ危險 廣西派ヲ初メ各地ノ軍閥ハ依然其ノ實力ヲ失ハス從テ何 法的權力ニ非ス)ノ增大安定ハ或ハ事實ナルヘキモ廣東 最近ノ事態ヲ驗討スルニ蔣介石軍閥ノ勢力(南京政府(๑゚ク゚) 三於 1

支那問題ニ對スル英國側意嚮等ニ關スル件

利用シ居ルモノト觀測スルモノスラアル實情ナリ)惧レ寧ロ共匪ヲ「バツフアー」トシテ自己ノ勢力維持ニラ蔣ハ之ニ全力ヲ擧ケテ自己ノ軍隊實力ヲ損スルコトヲテスルモ到底完全ニハ目的ヲ達成シ得サルヘキハ勿論乍將來ハ寧ロ悲觀セラル(尙共匪討伐ハ蔣カ其ノ全力ヲ以

(「アデイス」ハ加納宛六月十一日附書翰前段ニ於テ列國、「アデイス」ハ加納宛六月十一日附書翰前段ニ於テ列國、「アデイス」ハ加納宛六月十一日附書翰前段ニ於テ列國、「アデイス」ハ加納宛六月十一日附書翰前段ニ於テ列國、「アデイス」ハ加納宛六月十一日附書翰前段ニ於テ列國

二同政權ヲ援助セハ支那ノ統一平和ヲ得ヘシト爲スノ形日本ハ一政權ノ勢力ノ一時的增大安定セル故ヲ以テ直チコト何國ヨリモ大ナルモノアリ此ノ絕大ナル關心ノ故ニ日本ハ東亞ノ永續的靜謐支那ノ眞ノ平和統一ヲ希望スル

三、或ハ「一軍閥一政權ヲ財政的ニ援助セヨト言フニ非ス道 中ニハ支那ニ於ケル鐵道ノ發達ハ大軍ノ輸送ヲ可能ナラ 達カ支那統一ノ前提ナリトノ假説ハ支那ノ實情ニ通セサ カノ形ニテ軍費ニ使用セラレ内亂ヲ助長セルコトモ過去 支那ノ統一ニ寄與セサリシコトヲ示シ居レリ尙交通機關 議論ノ當否ハ暫ク措クモ過去ノ歴史ハ交通機關ノ發達カ シメ同國ノ內亂ヲ助長セリトナスモノスラアル位ニテ右 支那ヲ統一ニ導ク所以ナリト爲シ居レリ然レトモ學者ノ 通機關ヲ發達セシムルコトカ中央ノ權力ヲ地方ニ及ホシ 治的援助ト對立スヘキ經濟的援助トシテ鐵道ニ投資シ交 モノアラム「アデイス」モ前記加納宛書翰中ニ於テ右政 路鐵道等ノ建設事業ヲ投資助成スルハ之ト異ル」ト言フ ノ歴史ノ示ス所ナリ要スルニ鐵道其ノ他ノ交通機關 ノ發達等所謂建設事業ニ對スル外國ノ投資ハ 歐米流ノ考ニテ支那ニ就テハ本末ヲ轉倒 セル 其ノ實何等 E ノ發 ١

ノ國際管理ヲ認メ鐡道カ鐡道部ノ有効ナル監督ノ下ニ置又鐡道投資ノ安全性ニ付キテ「アデイス」ハ支那カ一種

反對スヘキ所ナリ
招來スヘキ措置ハ如何ナルモノト雖日本國民ノ正面ヨリ際管理ノ如キ全ク無効ナルヘシ尚支那ニ於テ國際管理ヲ
實カニ依ル以外ノ方法ナク法規上ノ鐵道部監督權又ハ國
當該地方ノ鐵道ヲ左右セントスル場合之ヲ防止スルニハ

一次では、一次では、一次では、一次のでは、では

前記()ノ通ナリミナラス事態ハ何等改善ノ見込ナキヤニ認メラルルコトノ維持)ヲ充シ得ヘキ狀態ニ達スルノ望ハ極メテ薄キノ然ルニ支那カ近キ將來ニ於テ右ノ要件(支那ノ統一治安

ハ右支那ノ統一及治安維持ノ要件ニ加フルニ支那カ善意『、又右建設事業ニ對スル國際合作ヲ效果アラシメムカ爲ニ

麥借款ノ如キハ最近ノ適例ナリ) ミナラス一方前記ノ如ク支那内部ノ混亂ヲ增シ他方同國 却テ外國ヲ惡用セムトノミ心掛クヘク結局外國ヨリ支那 以前生仲外國カ世話ヲ燒ケハ支那ハ外國ノ眞意ヲ解セス 支那側カ善意ヲ以テ外國ノ協力ヲ求ムル氣持トナラサル 多ノ事實ノ證明スル所ニテ今日ト雖何等ノ變化ナシ 右樣ノ態度ヲ以テ外國ヲ惡用セントシ居ルコトハ過去幾 ス) 固ヨリー、二ノ例外ハアルヘキモ支那ノ官吏及民間カ 惡用シ又金錢的ニハ外國借款ノ踏倒シヲ目的トシテ惡用 抗日ノ目的ニ利用セントスルカ如キ所謂以夷制夷政策ニ 的ニ利用セムトシ、支那ニ對スル外國ノ援助ヲ宣傳シテ スル外國ノ援助ヲ見セ掛ケテ他ノ軍閥ニ對スル示威ノ目 助ヲ惡用セムトスルニ過キス(例へハ一軍閥カ自己ニ對 リ改善ヲ計ラムトスル誠意ニ出ツルニ非スシテ外國ノ援 然ルニ從來支那カ外國ノ援助ヲ求ムルハ外國ノ協力ニ依 ヲ以テ外國ノ協力ヲ求ムル氣持トナル ニ對シ好意ト金錢トヲ唯タ吳レテヤ 關係アル 列國間ノ紛糾ノ種ヲ播クニ過キサル ルコト コトヲ要ス - 二終ル \sim シ(棉 キノ

而上的假説ニハ直チニ贊同ス

ル能

ハサ

ル

ノナリ

兀

直ニ同意スル能ハス 直ニ同意スル能ハス

大支那側ヲシテ舊債整理ノ必要ヲ忘レシムルニ過キサルチ夷のヲ要スルモノト思考ス從テ新投資ニ依リテ舊債整理ノ目的ヲ達セントスルカ如キハ本末ヲ轉倒セルモノニシがテ舊債整理ノ目的ヲ達セントスルカ如キハ本末ヲ轉倒セルモノニシがテ舊債整理ノ目的ヲ達セントスルカ如キハ本末ヲ轉倒セルモノニシがテੱラのヲ要スルモノト思考ス從テ新投資ニ依リテ舊債整理メリテ、大力のヲシテ之の爲ニハ關係列國カ一致シテ支那側ニがテ舊債を理ノ目的ヲ達セントスルカ如キハ本末ヲ轉倒セルモノニを又「アデイス」ハ新投資ヲ以テ鐵道ヲ延長改善シ之ニ依又「アデイス」ハ新投資ヲ以テ鐵道ヲ延長改善シ之ニ依又「アデイス」ハ新投資ヲ以テ鐵道ヲ延長改善シ之ニ依又「アデイス」ハ新投資ヲ以テ鐵道ヲ延長改善シ之ニ依

ヘシ

(付 記)

第九/二六號

昭和九年七月十七日

横濱正金銀行

副頭取

大久保

利賢(印)

東亞局長 桑島

主計殿

支那ニ關スル C. S. Addis 意見ノ件

對スル返信寫送附致越候ニ付右寫茲許拜送供貴覽候敬具本件ニ關シ弊行倫敦支店ヨリ C. S. Addis 來信寫及右

THE CHINA CONSORTIUM CENTRAL AGENCY.

9, Gracechurch Street,
LONDON.E.C.3.

June 11th, 1934

ur conversation on June 5 we Any scheme

My dear Kano,

In the course of our conversation on June 5 we contrasted the two methods by which the Foreign Powers might be of assistance to China.

The first is political, namely that our Governments should support and strengthen the hands of the Government seated at Nanking in order to enable them to introduce reforms and make them effective in the provinces under their control, and gradually to extend their authority throughout the whole country.

The second is economic: it is based on the postulate that no extension of authority is possible until China's very inadequate communications are materially developed. For this reason railway reorganisation by gradual steps is proposed, with Shanghai as a central nucleus. It is at least conceivable that a scheme might be devised to obtain some form of collateral security, in addition to the railway revenues, and to make provision for the arrears, provided the Chinese can be induced to concede

an adequate amount of international supervision.

Any scheme for reconditioning the railways must take into account the defaults on loans secured by the hypothecation of railway revenues, and debts for materials. The former are clearly prior liens, and the latter have at least an equitable lien on railway earnings. The delay in dealing with these debts has resulted in their increase by years of accrued interest, and the longer a settlement is postponed the more difficult will it be to bring about a settlement.

The solution of the problem necessarily involves the provision of money, which would be wasted unless China agreed to adopt a system of railway administration capable of safeguarding and respecting the interests of investors. If, however, the railways could be freed from mulitary abuse and interference and placed under efficient control of the Ministry of Railways, the problem of restoring their physical condition and undertaking their gradual development would present little diffi

submit it to worthy of exploration, and, further, advocated rather implement the first or political method, a view I understand that in your opinion this second which would not in any way supersede but by your the British Group for some principals for their consideration that you will years, īs.

Yours sincerely,

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LIMITED

LONDON.E.C.2 Bishopsgate,

19th June, 1934.

Sir Charles Addis

China Consortium,

My dear Addis, 9, Gracechurch Street,

personal opinion will be mutually beneficial in helping us esting. I feel confident that this free interchange of and I find the thoughts you have expressed most intertime to carefully consider your letter of the 11th instant form an up-to-date conception of China. Since writing to you on the 13th instant, I have had

ions of my Principals in Japan. therefore they may not wholly coincide with the opinentirely my personal views, and you will understand impressions, and I need scarcely mention that these I am now going to submit to you a few of my own

Government seat. Even this figure may be too generous extend to more than say 100 square miles around the that the influence of the Nanking Government does not The great difficulty in all the Chinese problems

the mercy of the banditry or military lords whenever and the consequence is that the Railways are always at becomes powerless the so-called Central Government

national pride and may object to any sort of control or opponents any sort of concession, I am afraid he would soon be of the Government whould agree to foreign interest for feel China would object. If a Minister or representative only be effected under foreign supervision, to which I under efficient control by the Ministry of Railways can military abuse and interference and the placing of them combined. But the liberation of Chinese Railways from even supervision by other Powers whether single or ment the Chinese themselves are intensely strong In spite however of the feebleness of the Governpossibly by his colleagues if not, by his ш.

中国をめぐる列国との関係 interested in China Railways to protect their own inter-Under these conditions it is very difficult for those

> dedicated to political party strife, the foreign investors their wishes. trouble which obviously is an object entirely contrary to might just as well have lent the money to aggravate the funds were applied to foster internal warfare or intended. If unfortunately it should happen that the utilized for the reconditioning of the railways would be ests, and there is the fear that any capital destined to be other purposes than originally

peace, no order, and no awakening of the people. By gether five and half years, with the opportunity afford general rule which can be applied to any Country in the authority would Country, I have come to the conclusion that this general ed of closely following the recent development of world. However as a result of my stay in China altocommunications were materially developed. This is fule cannot be Some years ago I myself felt that no extension of applied to be possible until China's inadequate China, where there no

essential in order to achieve political reformation. that the improvement of the Communication system is the awakening of the people I mean their realization

of China I feel very sad that so far I can find no good day of the awakening. problem. It seems only possible to await patiently the way out of the difficulty, no immediate solution of the In conclusion, dear Sir Charles, as a sincere friend

Yours sincerely

- リト返事セハ可ナルヘシ トシテナラハ之ニテ可ナルヘシ仍テ本店モ加納ト仝意見ナ 大体ヨク出來居レリ、 但シ尚不充分ノ点アルモ正金ノ答
- 二、但シ本信ハ大使館ト相談シテ書キタルモノト思ハレ、 使館ヨリモ報告アルコト、存スルニ付右報告ヲ俟チ前記 ノ点更ニ考慮スルコト、スヘシ 大

七、二〇

右白石ニ申聞済 七、二〇

껟右杭江鐵道ノ延長トシテ玉山ヨリ南昌ヲ經テ萍郷ニ至 云フ(杭江鐵道ノ例ニ鑑ミ一、二年ニテ完成スヘシト思 ニ獨逸「オツト、ウオルフ」公司ヨリ八百萬元ノ鐵道 保トシテ支那銀行ヲシテ八百萬元ヲ出資セシムルト共 西省政府モ亦千二百萬元ノ公債ヲ發行シ之等公債ヲ擔 鐵道部ハー千二百萬元ノ公債ヲ發行(條例公布濟)シ江 材料又ハ之ニ相當スル金額ヲ借款スルコトトナレリト ル玉萍鐵道 Yushan-Pingsiang Railway ニ付キテハ

新線ヲ建設シ更ニ南昌萍鄕間ハ前記엗玉萍鐵道ノ線路

ル

- |八蕪乍鐵道 Wuhu−Chapu Railway(蕪湖乍浦間) ハ 蕪湖ヨリ宜城 Suancheng 迄開通セリ 最 近
- || 京詔鐵道 Nanking-Chaoan Railway ハ南京ヨリ福建 年八月二十五日ヨリ基礎工事ニ着手シ明年三月迄ニハ言フへキ程度ヲ出テ居ラスト雖モ其ノ南京蕪湖間ハ本 開通ノ豫定ナリト言フ 省詔安ニ至ル鐵道ニシテ福建寄リノ方面ハ單ニ計畫ト
- 眾京湘鐵道 Nanking Hunan Railway 蕪湖間ハ前記台ノ京詔鐵道ノ一部ヲ、 kiapu 間ハ前記엕ノ蕪湖鐵道ヲ利用シ夫レヨリ南昌へ 蕪湖孫家埠 Sun-ハ目下ノ處南京

429 昭和9年11月17日 在英国松平大使宛広田外務大臣より

意向探査方訓令 京湘鉄道その他華中方面の鉄道に関し英国側

記 昭和十年一月十一日発在英国松平大使より広 田外務大臣宛電報第六号

右探査結果について

亞一機密第一四○號

昭和九年十一月拾七日

外務大臣

廣田

京湘鐵道其ノ他支那中部ノ鐵道ニ關シ英國側意嚮探査 特命全權大使 松平 恒雄殿

☆國民政府ハ掃共事業ノ關係モアリ江西省ヲ中心ト 鐵道計畫ノ實現ヲ急キ居リ ス ル各

分杭江鐵道(Hangchow-Kiangshan Railway 浙江省杭 近浙贛鐵道ト改稱セリ)ハ昭和八年十二月完成シ 州對岸西興ヨリ江西省玉山ニ至ル輕軌ノ鐵道ニシテ最

口右は京湘鐵道ニ關シテハ曾テ一九一四年三月一日中英公 司 The British and Chinese Corporation Ltd 支那政府 ヲ利用シツツモ大体ニ於テ舊寧湘鐵道豫定線ヲ完成セン 次ノ支那側計畫ハ前記㎞ノ如ク部分的ニハ他ノ鐵道計畫 勃發ノ爲計畫中絕シ前渡金モ其ノ儘不拂トナリ居レリ今 Kuangtechou ニ連接)ノ鐵道及南昌萍鄕間ノ鐵道建設等 國 Ningkwofu 徽州 Hweichoufu 南昌間(蕪湖及廣德 路公司ノ蕪湖附近ニ於ケル工程及財産ノ買收並ニ南京寧 米佛露ノ各國及支那間ノ條約」第六七五頁)アリ安徽省鐵 ment five per cent Nanking-Hunan Railway Loan「英 間ニ成立セル借款(Agreement for the Chinese Govern ノ公債ノ發行ヲ約シ五十萬磅ノ前渡ヲ爲セルカ歐洲大戰 ノ爲此等鐵道完成後ノ收入及財產ヲ擔保トスル八百萬磅 計畫ナリト云フ ヲ利用シ旣成株萍鐵道ニ聯絡シテ株州ニ達セントス

ル

英國側トシテハ支那側ニ依リ舊豫定線ノ建設セラル

トシテ含マル)ノ如キ旣ニ開通セル次第ナリ

スルモノノ如ク蕪湖宜城間(舊寧湘鐵道計畫ニハ支線

スル所アリタルモ支那側ヨリハ未夕囘答ニ接セス」ト述機密第六六號)参照)ニモ「中英公司ノ前貸金ハ國民政府の舊豫定線ノ建設ヲ引受續行スルコトヲ條件トシタルモノナルカ故ニ公司ハ此ノ際前貸金及其ノ延滯利息支拂ヲノナルカ故ニ公司ハ此ノ際前貸金及其ノ延滯利息支拂ヲノナルカ故ニ公司ハ此ノ際前貸金及其ノ延滯利息支拂ヲハ「サイモン」外相ハ十一月五日下院ニ於テ「獨逸ハ借機密第六六號)参照)ニモ「中英公司ノ前貸金ハ國民政府機密第六六號)参照)ニモ「中英公司ノ前貸金ハ國民政府和九年六月十二日附在支公使來信第二四三號(英宛亞一和九年六月十二日附在支公使來信第二四三號(英宛亞一番)

ヘタル趣ナリ

潮州間鐡道敷設權ヲ要求セルコトアリ其ノ後ハ別段ノが明治三十三年來福建九江線ノ支線トシテ南昌杭州間南昌シテ武昌九江南昌線ヲ聯絡スル鐵道及南昌杭州間南昌シテ武昌九江南昌線ヲ聯絡スル鐵道及南昌杭州間南昌シテ武昌九江南昌線ヲ聯絡スル鐵道計畫ヲ進ムルーシテ武昌九江南昌線ヲ聯絡スル鐵道及南昌杭州線ノ代明治三十三年來福建九江線ノ支線トシテ南昌杭州線ノ

ニ言ヒ掛リヲ着クル譯ニハ行カサルヘシ)ント」ヲ支那側ヨリ得居ラス從テ今更本件支那側計畫スル能ハス(尤モ此等交渉ハ何等具体的「コンミツトメ計畫ヲ有セスト雖モ此等ノ歷史的關心ハ今直チニ拋棄

四右大正二年交渉當時先以テ英國側ノ諒解ヲ得ル必要ア四右大正二年交渉當時先以テ英國側ノ諒解ヲ得ル必要アリトテ屢次英國政府ト公文ノ往復ヲ重ネ結局寧湘鐵道ト萍郷鑛山ニ對スル帝國ノ利害關係ヲ顧慮シ寧湘鐵道ト南潯鐵道ノ聯絡並ニ萍郷鑛山ノ鑛物運送ニ關シ特道ト南潯鐵道ノ聯絡並ニ萍郷鑛山ノ鑛物運送ニ關シ特別ノ考慮ヲ拂ヒ他日英國資本ヲ以テ寧湘鐵道ヲ敷設スルニ當リ日本側ト特別ノ取極ヲ爲ス旨ノ「コンミツトルニ當リ日本側ト特別ノ取極ヲ爲ス旨ノ「コンミツトルニ當リ日本側ト特別ノ取極ヲ爲ス旨ノ「コンミツトルニ當リ日本側ト特別ノ取極ヲ爲ス旨ノ「コンミツトルニ當リ日本側ト特別ノ取極ヲ爲ス旨ノ「コンミツトノテノヲ得タル形トナリ居リ(支那鐵道問題資料第)

セラレ居リ從テ日本團体トシテ英國側カ中英公司借款於テ英國團体ヨリ借款團ノ共同事業トシテ「プール」엙前記中英公司借款ハ一九二〇年十月紐育借款團會議ニ

何等カ工作ノ余地アルヘシ)
「一句探ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日ニ付採ルへキ措置ニ付無關心ナル能ハス殊ニ九月六日

(1)客年十月三日附亞一機密第一一三九號別紙第四號末段 (1)客年十月三日附亞一機密第一一三九號別紙第四號末段 (2)了ール」セラレ居り同延長線ヲ三銀行以外 世款團ニ「プール」セラレ居り同延長線ヲ三銀行以外 アル處寧湘鐵道ニ對スル英國側權利ハ山東延長線ニ對 スル我方ノ權利ト多少相異ナル點アルモ(前者ハ借款 でルニ對シ後者ハ政府間ノ取極ニ基ク建設權ナルコ を で、一方で、一方で、一方の、 で、一方で、一方の、 で、一方で、一方の、 で、一方で、一方の、 で、一方の、 で、一の、 で、一の、 で、一の、

> 大ル前例ヲ作ルモノト言フヘシ) 出鐵道計畫ト舊英支借款ノ關係ニ對スル借款團殊ニ英國「グループ」ノ見解ハー應之ヲ確カメ置クコト必要國「グループ」ノ見解ハー應之ヲ確カメ置クコト必要國「グループ」ノ見解ハー應之ヲ確カメ置クコト必要」が、 場合ハ山東鐵道延長線問題ニ付我方ニ取リ極メテ有利 場合ハ山東鐵道延長線問題ニ付我方ニ取リ極メテ有利 よいに、 がのヲ作ルモノト言フヘシ)

間ニ種々交渉ノ經緯アルノミナラス一九一四年ノ中英公シテ「アデイス」ニ對シ『京湘鐵道ニ關シテハ曾テ日英四就テハ此ノ際敍上ノ次第御含ノ上貴地正金銀行代表者ヲ

何及其ノ成行等ニ付質問探査セシメラルルコトト致度ク 態度ヲ採ルモノナリヤは前貸金ノ取立交渉ヲナス根據如 權利ヲ行使スルト否トハ借款團ノ關知セサル所ナリトノ ウオルフ」ノ出資ハ實ハ英國資本ニ非スヤ臼借款契約ノ レシメラレ且旨ヲ含メテロ答ヲ以テ前記三ノ()「オツト、 ナル態度ヲ採ル積リナリヤ承知シ度シ』トノ趣旨ヲ申入 テ如何ナル態度ヲ採リ居ラルルヤ將又借款團トシテ如何 ニ於テハ最近ノ支那側計畫及獨資利用ニ關シ英國側トシ 司借款カ借款團ニ「プー ル」セラレ居ルニ鑑ミ日本團体

信寫ヲ內示シ正金倫敦代表者ヲシテ本件申入ヲナサシ 東鐵道トノ相似關係ニテ我方カ興味ヲ有スルコト 追テ申ス迄モナキ儀乍ラ前記闫ノ臼は中ニ記載 内示セラレ差支ヘナシト存ス 人指導ノ必要上同人限リ極祕ノ含トシテ右ノ部分ヲモ 方ヨリ正金側ニ對シテハ右ニ關スル部分ヲ削除セ 國側ニ對シテハ全然感知セラレサル樣御注意相成度當 コトトセル旨申聞ケ置キタルカ加納ニ對シテハ同 セ ハル英山 ル 本

結果概要囘電、

委細郵報アリ度シ

尙爲念支那鐵道問題資料第九及參考略圖別添送付ス

本信寫送付先 支 南京、

付 記

ンドン 昭和10年1月11日後発

昭和10年1月12日前着

客年貴信亞一機密第一四〇號ニ關シ

道部長ト獨支「シンヂケート」代表 Otto Wolff トノ間ニ杭 照會スルト共ニ「アヂス」病氣ニ付九日秘書兼「アシスタ 式ニ關係ナキ處支那カ自國ノ ニ抵觸スル旨指摘シ置キタリ我々ハ右交渉ヲ概觀シ出來得 ヲ以テ早速右鐵道中南昌萍鄕間ハ一九一四年協定線ノ一部 州、萍郷間鐵道ニ關シ協定署名セラレタリトノ報アリタル テハ借款團代表 Boothby ヲシテ聯絡ヲトラシメ居ル處鐵 日 Barns ノ名ヲ以テ返翰送付越シ支那ノ鐵道交渉ニ關シ 嘉納ヲシテ八日「アヂス」宛書翰ヲ以テ御申越帰タ 國市場ニ於テ募集スルモノニアラサルヲ以テ借款團 ル援助ヲ爲ス積リナルカ右ハ單ニ地方財政ノミニ關シ且外 ント」 ナル Leneson ヲ訪問質問セシメタル處先方ヨリハ十 財源ヲ以テ行フ交通ノ改善ハ ノ點ニ關シ 1 . 、 正

來スルモノト思惟セラルル旨申越セリ又前記嘉納ノ口頭質如何ニ小ナルモノニセヨ將來支那ニ於ケル取引ノ增大ヲ招 問ニ對シ Leneson ハ

資本ハ無シ、問題ノ鐵道ニハ加奈陀會社ヨリモ材料賣込 ヲ申出タルモ物ニナラサリシナリ 「オツト、ウオルフ」會社ハ純然タル獨逸會社ニテ英國

三、借款團ハ中英ノ爲スニ委セ傍觀的態度ヲ取ルコト唯一最 後ノ途ナルヘク卽チ benevolent indifference 取ル可キモノト考フ ノ態度 ヲ

三、南京政府ハ借款團ヨリ鄕昌鐵道借款協定違反ヲ抗議セ 弗借款ハ一月起債ノ筈ナリシカ上海銀市場强硬ノ爲三月 シテ可ナリト考へ居ル旨ヲ答へ尙滬杭再鐵道線約六百萬(℉?) 方債起債ニ際シテハ何レノ國モ加入ヲ欲スレハ勿論共同 local loanヲ起シテ建設ヲ行フノ外ナシトノ意見ニテ地 策シ居レリ又英國側トシテハ目下ノ狀態ニテハ借款團ニ 英公司ハ前貸金ヲ返濟シテ貰フ所存無ク敷設杵ノ實行ヲ 何等契約スル處無キヲ以テ違反トナラスト囘答セルカ中 二對シ獨逸側トノ契約ハ玉山南昌間ノミ南昌萍鄕間ニ付 海外起債ハ困難ニテ支那銀行ト共同シ支那ニ於テ ル

> 之ハ前貸金トナリ居ル次第ナリト語レル趣ナリ ニ之ヲ行フ筈ナルモ見込不明ナリ尤モ工事ハ進捗シ居リ

委細郵報

430 昭和9年12月14日 広田外務大臣宛(電報)在中国有吉公使より

する旨在中国英国公使内話について 中国政府の要請に応じ鉄道整理改善計画立案 ため同国に英国鉄道専門家ハモンドを派遣

上 12月14日後発

本 12月14日後着

第九三〇號(部外絕對極秘)

二名ノ秘書同伴來年初頭來支スルコトニ決定シタルカ同人 置シ實ハ約四箇月前鐵道部長ヨリ全國國有鐵道整理改善計 各地ニ活躍シ其ノ他ニ於テ廣ク鐵道事業ニ關係シ居タリ) Hammond(大戰中及其ノ直後英國鐵道專門家トシテ歐洲 タルニ付本國政府ト打合セタル結果 Brigadier General 畫立案ノ爲英國ノ鐵道專門家ヲ招聘シ度ク斡旋方依賴アリ 十三日「カドガン」公使ハ須磨ニ對シ極秘ニ願ヒ度シト前

道債務ノ整理ハ一時見合スコトニ内定シ居ル樣了解シ居レ 1) ハ約四箇月滯在ノ豫定ニテ同人ノ 「ビール」邊リヨリ顧孟餘ニ持掛ケ 應話合纒リ居タルモノトモ想像セラレタル趣ナルカ同人 ト内話セリ其ノ際須磨ノ受ケタル印象ニ依レハ本件ハ 「アド ビ バ ノ賜暇歸國前ニ イス」アル迄鐵

> 及「アデイス」「モネー 意ノ要アリ ト認メラル (絶對外部ニ發表セサル樣致度シ) 」等ノ持論ニ鑑ミ本件成行ハ充分注

南京、 北平ニ轉電セリ

天羽情報部長の非公式談話問題

付

431 昭和9年4月18日 広田外務大臣宛(電報)在独国永井大使より

局が反対を表明したとの独国紙報道について 東平和を害する諸外国の一切の行動に日本外務当 軍事教官派遣、 軍用機や政治的借款の供給など極

「對支國際援助問題ニ關スル情報部長ノ非

外務省編『外務省公表集』第七輯より抜粋

公式談話」

~ ルリ シ 4月18日後発

本 4月19日前着

第七九號

外務省カ日本ハ極東ノ平和維持ニ對シ當然ノ責任ヲ有ス支 平和ニ反スル支那政府ノ一切ノ行動ニ反對スルト共ニ他國 那ノ秩序恢復ハ支那自身ニ係ル所ナルニ鑑ミ日本ハ極東ノ 十八日當地新聞夕刊ハ對支國際援助問題ト關聯シ同日日本 ノ措置ニ就テモ例へハ支那ニ對シ軍用飛行機、 非經濟的目的ノ 借款ヲ供給スル等極東ノ平和ヲ害スル措 軍事教官又

> 《日本政府カ爲シタル動幾不明ナリト述へタルカ尚 RZ amMがシット」ハ支那ニ於ケル門戶開放主義ニ反スル斯ル宣言ヲニシブリル注意ヲ注ヰ雇Lリゴミラーヘルリガー・ターケラ 政治的事態カ日本ノ欲スル 日本ハ武力ヲ以テ脅威ストノ表題ノ下ニ本件宣言ハ支那ノ 的行動ヲ執ラントスルモノナリト述ヘタリト 外務當局ハ日本ハ極東ノ平和ノ脅威サル 日本ニ取り重大ナル結果ヲ齎スモノナリト爲スモノニシテ 技術及財政的對支援助モ結局政治的性質ヲ有シ支那極東及 ル其ノ特別ノ使命ヲ遂行セントスルモノナリ日本ハ共同ノ 言ニ依レハ日本ハ假令他國ト紛爭ヲ惹起スルモ極東ニ於ケ Mittag ハ同紙通信員 Schulze ノ東京發電報トシテ本件宣 日本政府カ爲シタル動機不明ナリト述へタルカ尚 BZ am シ大ナル注意ヲ注キ居レリ而シテ「ベルリナー、 那ニ對スル第三國ノ干與ニ對スル日本ノ反對等ノ見出ヲ附 發電報ヲ揭ケ各新聞共日本ノ極東ニ於ケル覇權樹立又ハ支 シ戰爭ノ威嚇ヲ意味スト評シ カ如キ發展ヲ爲サ Z ij ルニ對シテハ積極 サ ノ通信ヲ揭ケ ル場合ニ對 ターゲブ ・ノ東京

(欄外記入一)

如何ナル故障アルモ主義一貫スベシ